

# Abstract

AROMA RESEARCH No.75(Vol.19 No.3)

超多項目 (2000) 健康ビッグデータで健康長寿社会実現へ貢献する  
—嗅覚機能(におい・香り)検査がもたらす次世代健康イノベーションの可能性—

村下公一

---

<要旨>弘前大学では、2005年より弘前市岩木地区の住民1,000名超に対し、大規模な住民健診(岩木健康増進プロジェクト)を継続して行っている。その大きな特長として、検査項目が約2000項目超、14年間で延べ2万人以上に及ぶ、超多項目な健常人の健康ビッグデータの存在である。

2013年に文部科学省の「革新的イノベーション創出プログラム(COI)」に採択されたことをきっかけに、弘前大学COI拠点には大手ヘルスケア企業が多数参画し、世界に類のない健康ビッグデータ解析による革新的な疾患予測や、予測に基づいた予防法の開発に、産学官民が一体となって取り組んでいる。近年では、社会問題となりつつある認知症の発症を予測するアルゴリズムや、生活習慣や社会環境と健康との関係について、徐々に解明しつつある。

本稿では、本COI拠点で様々な取り組みを行っている中からいくつかピックアップして紹介するが、本誌に係るにおいを嗅ぎ分ける識別力と認知症の関係等についても触れてみたい。そして、弘前大学COI拠点が目指す“健康長寿社会”の将来ビジョンと、その実現に向けた基本戦略とその取組概要について紹介する。

<キーワード>寿命革命、健康ビッグデータ、社会イノベーション、オープンイノベーション 2.0、AI